

コンコラプトル



Choncoraptor gracilis Barsbold, 1986
 脊索動物門 爬虫綱 竜盤目 オビラプトル科
 後期白亜紀 モンゴル国産
 GSJ F16346

コンコラプトル骨格および
 営巣状態復元模型

コンコラプトル (*Conchoraptor*) は、モンゴルの約 7600 万年前の後期白亜紀の地層から発見された、全長 1.3 メートルほどの恐竜です。この学名は、「貝泥棒」という意味をもっています。なぜ泥棒かって? それにはまず、近縁のオビラプトルのことを説明しましょう。

白亜紀の恐竜オビラプトル (*Oviraptor*) の学名の意味は、「卵泥棒」です。最初のオビラプトルの化石は、卵の化石のそばで発見されました。そのため、他の恐竜の卵を盗んで食べていたと疑われ、このように名付けられたのです。しかし後に、卵の中からオビラプトルの赤ちゃん化石が見つかり、その卵はオビラプトル自身のものとわかりました。卵を盗むどころか、巣で卵を抱いて守る、やさしい習性を持っていたことをうかがわせる化石もあります。オビラプトルに着せられた泥棒の疑いは晴れたものの、この名はそのまま用いられています。

コンコラプトルの学名を付けるとき、この恐竜は主に貝を食べていたと推定されました。それはオビラプトルの疑いが晴れる前だったので、名付け方もオビラプトルにならって「貝泥棒」とされたのです。コンコラプトルも、巣で卵を抱く習性があったと考えられていて、この標本は営巣状態を復元したものです。あたかも母鳥が卵を守るような姿ですね。

コンコラプトルの仲間には羽毛を持っていたものが見つかっていて、卵を抱く習性とあわせて、肉食恐竜の一部が鳥の祖先であるという説の有力な証拠と考えられています。いわゆる恐竜は絶滅してしまいましたが、その子孫が鳥に姿を変えて、現在も生き続けているということができるようでしょう。

(地質標本館室 兼子尚知)